

仕事始めと新年会・祝賀会

1月12日（金）午後1時30分から、今年の仕事初めとして、森の見回りを行い倒木や枯れ枝などの片付けを行いました。終わって16時から会場を乃木公民館に移し、知事表彰の祝賀会にあわせ新年会を行いました。表彰状と金杯の披露があり、銀杯で乾杯しました。折り詰め弁当にビールの簡素な祝賀会でしたが、今後の作業の取り組みなど話し合いにぎやかで和やかな会となりました。



ささやかな祝賀会

小屋の補修と芋煮会1/20（土）

今年の本格的な作業は、道具小屋の補修でした。小屋が傾き扉の開閉がうまくいなくなっており、その修理でした。小屋の中の道具を総て持ち出し、ブロックを土台に水準器で修正しながら皆で傾きを直し、時間をかけ完成しました。

また、この日の作業後芋煮会を行いました。会員が自宅で作った野菜を持ち寄り、女性軍が朝から準備に掛かりました。森のシイタケやナメコに、持ち寄ったレンコンなど具だくさんのおいしい芋煮ができて、おにぎりもあって、休憩所のテーブルを囲んでおいしくいただきました。



作業小屋の修理（1）



作業小屋の修理（2）

田和山の樹木 第45回 ヌルデ

ヌルデは、林縁に自生するウルシ科の落葉樹です。高い繁殖力を持ち、法面や伐採跡地など明るいところで他の樹木に先駆けて芽を出し生育します。国内各地で広範囲に見ることができます。

ウルシやハゼノキほど鮮やかではないものの、秋に紅葉するので、「ぬるでのもみじ」と呼ばれています。葉は3～6対の小葉からなる羽根状で枝から互い違いに生じ、葉軸（茎）にヒレのような「翼」があるため他と容易に区別できます。



かつてはヌルデの樹液を器などの塗料として使ったことから、塗料を意味する「塗る手」が転訛してヌルデと名付けられたといわれています。樹液はウルシのような質感の白色で、このため漢字表記は「白膠木」となっています。

葉にヌルデシロアブラムシ（ヌルデノミミフシアブラムシ）が寄生して「虫こぶ（＝五倍、ふし）」を作ることがあり、その虫こぶにはタンニンが多量に含まれ、これを集めて煮沸し、乾燥させたものは平安時代から黒の染料として使われ、お歯黒や染料、皮なめしに使われています。また、勢いよくパチパチと音をたてて燃えるため邪気を払うという意味で『護摩木』としても利用されています。

弱い人は樹液に触れるとかぶれることがある（ハゼやウルシに比べるとひどくならない）ので注意が必要な木です。
（竹下記）



芋煮の準備

上定松江市長田和山館の連絡会で謝意

去る2月5日（月）、田和山館で開催された三者連絡会に松江市長が来訪。先日、里山を育てる会と田和山サポータークラブが島根県から表彰を受けたことに対し、日頃の活動の成果が認められたものと感謝の言葉を述べられました。里山の活動に対しては、キンランやササユリの保存、育成についてふれ、今後とも活動の継続をお願いしたいとのことでした。

今後の活動予定

2月9日（金）13：30～、17日（土）9：00～、23日（金）13：30～

3月1日（金）13：30～、8日（金）13：30～、16日（土）9：00～、22日（金）13：30～、29日（金）13：30～

